

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	府中町立府中南小学校
-----	------------

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

食に関する指導では、児童が給食で使用する野菜の下処理をしたり、児童が考えた献立を給食で実施したりして学習と給食を関連させることにより、苦手なものも食べようとするなど食への関心が高まってきた。しかし、学習した直後は意欲的に取り組んでいるが定着には至らず、給食時間では次の課題がみられる。

- ・ 苦手な食べ物に対して、食べようとしない。
- ・ 食事のあいさつは、ほとんどの児童ができているが、定着していない児童もいる。
- ・ 給食時間内に食べ終わることができず、昼休憩の時間になっても食べている。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・ 給食残食率 1%以下
- ・ 食事のあいさつをする児童 90%以上
- ・ 協力をして準備をする児童 70%以上

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 給食残食率

○給食時間での教室訪問

担任と連携を図りながら、苦手な食べ物を食べられるように声かけをするなどの個別指導を行った。個々の食べる力が定着するよう、少しでも食べられるようになったことを評価するなど、継続的に指導を行った。また、食べ終わっていない児童が食べることができるよう、食べ終わった児童の教室での過ごし方など、担任と連携を図りながら指導を行った。

○担任と連携したティームティーチング授業

第1学年及び第2学年の生活科の学習において、給食ができるまでの様子を知らせ、給食を作る人の思いに気付かせ、感謝して食べる意欲をもたせた。さらに、児童が下処理をした野菜（とうもろこし、空豆）を給食献立に取り入れ、全校児童が食べる取組を通し、野菜に興味をもたせ、苦手な食べ物を食べようとする意欲につなげた。

特別支援学級の生活単元学習において、児童がさつまいもを育てたり、給食で提供するさつまいも料理を考えたりする活動を通して、野菜に興味をもつとともに、給食の献立を作成する時の工夫に気付くことで、苦手な食べ物を食べようとする意欲につながった。

○給食委員会との連携

1回目のアンケート結果より、給食時間に話をしすぎて時間内に食べることができないため残食につながることもあることに児童が気づき、楽しく食べるだけでなく、時間内に食べきるための工夫について、給食時間の放送や、全校朝会の発表、教室訪問など啓発を行った。

○調理委託業者との連携

残食量や給食時間の児童の様子について共通認識を図り、献立や調理工程の改善，工夫を行った。

【取組 2】(テーマ) 食事のあいさつをする児童

○委員会活動との連携

給食委員会の児童が，学期に1回アンケートをとり，その結果に基づいて，給食時間の放送や，全校朝会の発表，教室訪問など啓発を行った。

○担任と連携したティームティーチング授業

第6学年の特別活動の学習において，食事のあいさつの意味を知らせることにより，食べることは食べ物の命をいただいていることや，自分が食べるためにはたくさんの人が携わっていることに気付かせ，心をこめて食事のあいさつをしようとする意識付けを行った。

【取組 3】(テーマ) 協力をして準備をする児童

○委員会活動との連携

1回目のアンケート結果により，時間内に食べ終わる児童が約半数しかいなかったことを知り，時間内に食べ終わるための工夫の1つとして，協力をして準備をすることについて，給食時間の放送や全校朝会での発表，教室訪問など啓発を行った。

○担任との連携

給食準備時間の過ごし方などクラスの状況に応じて担任と連携した給食指導を行った。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

○府中町の取組

府中町内の栄養教諭，学校栄養職員で，府中町統一メニューを検討し，ひろしまオールスター★担々丼，牛乳，府中朝パックスープ，小松菜のナムル，フレーフレー!!サンフレゼリーに決定し，実施した。

○校内での取組

第6学年の家庭科の学習において，「ひろしま給食100万食プロジェクト」のレシピに応募した。応募作品の中で，このプロジェクトの内容をふまえ，本校で実施可能な作品8品を選定し，10月に4品，11月に4品実施した。それぞれの作品について，献立表で家庭への啓発を行った。また，資料を作成し校内に掲示するとともに，持ち帰ることができるレシピカードを配布し，家庭での実践につなげるよう努めた。給食実施日には，給食委員会が給食放送を行い献立の紹介を行った。

○PTAとの連携

PTA保健委員会主催の保護者対象の給食試食会で，野菜ごろごろおと姫トマトソースのソースを使ったラザニアとタコポテサラじゃこ〜!!!を実施した。試食前に今年度の「ひろしま給食100万食プロジェクト」について説明を行うとともに，家庭での協力を依頼した。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

○給食残食率

昨年度に比べ、残食率は下がっている。昨年度からの取組もあり、学級担任と連携を図りながら、個に対応した給食指導を継続したことや、給食委員会の児童が課題意識をもって活動を行ったことによるものだと考える。特に、給食委員会の教室訪問では、クラスごとに1回目と2回目のアンケート結果を比較するなど、それぞれのクラスに応じた啓発を行ったため、児童一人ひとりの意識付けにつながったと考える。また、日々の献立について調理員と連携を図り、献立や調理工程の工夫を行ってきたことも残食率の低下につながったと考える。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	平均
平成30年度 残食率(%)	1.3	1.0	0.9	0.8	0.6	0.5	0.6	0.4	0.5	0.5	0.7
平成29年度 残食率(%)	1.3	1.6	1.4	1.7	1.1	0.7	0.6	0.4	0.7	0.5	1.0

○食事のあいさつをする児童

給食委員会が行ったアンケート結果では、96%から98%と食事のあいさつをすることが定着してきた状況がみられる。

○協力をして準備をする児童

給食委員会が行ったアンケート結果では、協力して準備をしようとする児童の割合が70%だった。学級担任と連携を図りながら給食指導を行ったり、給食委員会の児童が課題意識をもって活動したりしたことによるものだと考える。

【課題】

○給食残食率

全体の残食量は減っているが、行事等で給食時間を延長できない時に残食が多い傾向がみられる。個々の嗜好とともに、協力して準備をしたり、時間を意識して食べたりするなど、給食時間の過ごし方や、自分の健康を考えた食事のとり方など継続した指導が必要だと考える。

○協力をして準備をする児童

今年度は目標値70%を達成したが、個々にみると給食準備の取りかかりが遅くなったり、準備中のきまりが守れなかったりする児童もいる。担任と連携を図りながら継続した取組が必要だと考える。

6 今後の取組に向けた改善方策について

今年度の成果指標については、全て目標値を達成することができた。しかし、児童一人ひとりをみると、それぞれ課題もあり継続した取組の必要性を感じる。来年度も、担任や委員会活動と連携を図りながら継続した取組をすすめ、児童一人ひとりの食に関する力を育成していきたい。